

出題のねらい

大問Iは文法力と語彙力を問う問題です。高等学校の英語教科書で学ぶ基本的な文法事項や語彙・表現が出題されます。

大問IIは空所補充形式で英文を完成させる問題です。文法力とともに、文脈を理解し、英文全体の意味を把握する力が問われます。

大問IIIは会話文です。前後の文脈把握、会話のテーマへの理解力に重点を置いた出題となっています。

大問IVは長文読解問題、リサイクルしたコンピュータの学校教育での活用に取り組むケニアの女性について述べた文章ですが、英文の要点に関する理解度を問う出題です。

大問Vは並べ替えによる英文完成問題です。語句を並べ替え、意味の通る正しい英文を完成する力を問います。

【I】  
【解答】 (20点)

1	①	2	②	3	④	4	③	5	④
6	①	7	③	8	②	9	①	10	③

(2点×10)

【解説】

- change for the better で「良い方向に変わっていく」
- It takes her two hours to get to school. 「学校へ行くのに2時間かかる」
- be sorry for ~ で「～を後悔する」 what he did は「彼のやったこと」
- a park bench where we can sit and talk は「すわって話ができる公園ベンチ」
- By the time the king comes back from the ceremony で「王様が式典から帰るまでに」
- can not help but laugh (=can not help laughing) で「笑わずにはいられない」
- 時制に注意 「医者が呼ばれた時、老人は数日間病気だった」
- Had it not been for your help = If it had not been for your help 「あなたの支援がなければ」 仮定法過去完了の用法に注意
- go about ~ で「(仕事や問題に) 取り組む」
- by a hair's breath で「間一髪のところで」

【II】  
【解答】 (30点)

11	⑦	12	⑩	13	②	14	④	15	⑨
16	⑤	17	③	18	①	19	⑥	20	⑧

(3点×10)

【解説】

- about an hour's train ride northeast from Tokyo 「東京から北西へおよそ1時間の列車移動」
- A local man named Ryohei Orimoto 「折本良平という名前の地元の人」
- by designing a new kind of boat 「新たな種類の小舟を設計することで」 手段・方法を示す前置詞 by
- instead of ~ 「～する(～の)代わりに」
- made it easier to catch fish 「魚を捕ることをたやすくした」 make + it + 補語の構文に注意。it は形式補語で to catch fish を指している。
- by the amount of fish they caught 「捕った魚の量で」 尺度・標準を示す前置詞 by
- for fishing 「漁のために」 目的を示す前置詞 for
- be seen as a tourist attraction 「観光事業として見られている」
- people's income and lifestyle 「人々の収入と生活様式」 地元の人々の収入と生活様式に大きな変化をもたらしたと述べている。
- this innovation changed their lives 「この革新が彼らの生活を変えた」

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

21	⑦	22	⑧	23	②	24	③	25	⑥
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---

(3点×5)

【解説】

- (21) How about going for a bike ride? 「サイクリングに出かけるのはどうだい?」次に Jane が My bicycle is old. 「私の自転車は古いよ」と言っているので自転車を利用した計画の提案と分かる。
- (22) That's fine. 「構わないよ」 Is that okay? 「それでも大丈夫?」 に対する返答であることに注意
- (23) Should I bring anything else? 「何か他に持ってくるものある?」次に Bring your helmet. 「ヘルメットを持っておいで」と答えている点に注意
- (24) It's better to be safe. 「安全なほうがいいよ」ヘルメットを持参する理由を述べている。
- (25) I'll lend you the old one. 「古いヘルメットを貸してあげるよ」姉(妹)が新しいヘルメットを買ったので、古い方を貸そうと言っている。

【Ⅳ】

【大意】

ケニアの田舎で貧困の中で育ち、ネリー・チボイはシングルマザーの母親がチボイと3人の姉妹が学校に通えるようにと休むことなく働き続けているのを見てきた。母親は小学校5年生で学校教育を終えているのだ。幼い頃から、自分の家族は希望のない生活を余儀なくされているとチボイは痛感していた。それは彼女の家族と似た村の他の家族も同様である。「母は本当に懸命に働いていました。でも、私は空腹を抱えたままベッドに向かっていました。学費が払えず、家に帰されていました。雨が降れば水浸しになる家に住んでいました。」29歳になったチボイは語る。「家庭の貧しさ、コミュニティとその苦難を見てきたので、何かしなくてはいけないという気持ちをはっきりと持つようになったのです。」

チボイは合衆国の大学に奨学金で通い、家族を支えるために臨時の仕事で働き、そしてコンピュータサイエンスに強い興味を持っている自分に気づいたのだ。職に就き、好きなことをやって収入を得ることができるとはコンピュータリテラシーのおかげだと彼女は思っている。故郷のコミュニティの人々もこの能力を得て欲しいのだ。現在、非営利団体テックリットアフリカ (TechLit Africa) を通して、彼女は4000人の子どもたちに明るい未来への機会を与えようとしている。この組織の名前は Technologically Literate Africa の短縮形であり、ケニアの地方にある学校の技術教室開設を目指して

リサイクルしたコンピュータを活用している。「貧困の苦しみを知っています。だからこそこの事業に情熱を燃やしているのです。」合衆国とケニアを往来するソフトウェアエンジニアであるチボイはこう語る。「夜、空腹のために胃がひっくり返りそうになったことを決して忘れはしません。」

2012年、奨学金を得たチボイはイリノイ州のオーガスタナ大学に入学、コンピュータについてほとんど何も知らないまま勉強を始めたのだ。手書きで論文を書き、苦勞しながらノートパソコンにそれを書き写す。コンピュータを使う際には不愉快な思いばかりであったが、3年生時の数学専攻必修であるジャヴァの授業が転機となった。「コンピュータサイエンスと出会った時、夢中になったのです。これこそが将来の職業であると確信しましたし、故郷の人たちにも教えたいと思いました。」チボイは専攻をふたつに替え、学士の学位を修得した。しかしながら、タッチタイピングのように他の人にとっては簡単な技能も、彼女にとってはいまだに困難な壁となって立ちはだかっていた。大学卒業後も、コーディングの面接試験に合格する前に6か月間もタッチタイピングの練習に取り組む必要があった。この技能は現在テックリットの教育課程の中核となっている。「7歳の子どもがタッチタイピングをしているのを見ると本当に充実感があります。私がタッチタイプできるようになってまだ5年も経っていないのですから。」

チボイは同業の企業と接触し、2018年にこうした会社からリサイクルしたコンピュータを受け取る活動を始めた。出発点は小さいもので、機内持ち込み荷物にリサイクルコンピュータを詰め込んでケニアへ運び、税関費用や税金の処理を彼女自らが引き受けていた。「ある時、44台のコンピュータを選びました。その時は荷物にかかった費用の方が私の航空券よりも高かったのです。」寄付されたコンピュータ輸送のため、テックリットアフリカは今では貨物輸送会社と連携している。この方が費用の面では効率が良いのだ。寄付された機器は初期化、改修され、ケニアの地方にある提携校に配布されている。ここでは4歳から12歳までの生徒たちが日々授業を受け、専門職の人たちから学ぶ機会を頻繁に享受している。生徒たちは学びの質を向上させ、将来の職業選択の支援となる技能を身につけるのだ。「特定の技能を持った人たちを呼び、音楽制作、映像制作、コーディング、パーソナルブランディングについて子どもたちに教えてもらっています。」チボイは語る。「NASAの教育プログラムの遠隔授業から我々の呼んだアーティストとの音楽制作まで多岐にわたっています。」

チボイの組織はオンラインおよびオンサイトのコンピュータ所有権を所有し、技術面でのサポート、ソフトウェアの

## 一般入試／英語(前期)

アップデート、トラブルシューティングといったサービスを提供している。テックリットアフリカは子供向けの新しい顧客専用オペレーティングシステムをインストールし、学校は提供されるサービスに対して少額の使用料支払いを求められる。このサービスには午前8時から午後4時までのテックリットのオンサイト教員利用も含まれている。組織は現状では10の学校にサービスを提供中であるが、来年早々にはさらに100校との提携をチボイは希望している。「私の希望は、最初のテックリットの子どもたちが卒業する時、オンラインでの職業に就けるようになることです。みんなコーディング、グラフィックデザイン、マーケティングについて学んでいるのですから。」チボイは言う。「教育を受ければ、世界はあなたたちのものになります。リソースと技能を提供し、私たちは子どもたちに世界への扉を開いているのです。」

【解 答】 (20点)

26 ② 27 ⑤ 28 ⑧ 29 ⑩  
(順不同OK) (5点×4)

【解 説】

- (26) She credits computer literacy for her ability to find job opportunities and make money doing what she loves.  
(第2段落 II. 2-3)
- (27) Yet she says skills like touch-typing that came seamlessly to some were still a steep learning curve for her.  
(第3段落 II. 6-7)
- (28) “We have people who own a specific skill coming in and are just inspiring the kids with music production, video production, coding, personal branding,” Cheboi said. “They can go from doing a remote class with NASA on education to music production with our artists.”  
(第4段落 II. 7-10)
- (29) “The world is your oyster when you are educated. By bringing these skills, we are opening up the world to them.”  
(第5段落 II. 7-8)

【V】

【解 答】 (15点)

問1 30 ④ 31 ⑥  
問2 32 ③ 33 ④  
問3 34 ⑥ 35 ①  
(組み合わせ択一) (5点×3)

【解 説】

(30) (31)

Mr. President, we are very happy  
to have you on our news show.

(32) (33)

How do you like your new school?

(34) (35)

Yes, and that's what I like about it.